

	行動目標	担当患者(目標単位数) 経験患者レベル等	OJT ※Off JT、SDSは別紙参照	評価	面談
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての基本的マナーを身につける ・病院および科の理念を理解する ・職場の規則を厳守し、スケジュール管理ができる ・報告、連絡、相談を理解する ・医療安全・感染対策を身につける ・心身ともに体調管理ができる ・業務の流れを理解する ・科内の業務内容を理解し、一部参加および援助ができる ・教育者の直接監督のもと、基本的な療法行為を経験する ・教育者助言のもと、一般的な対象疾患における基本的知識・治療技術を理解する ・日々の診療参加および業務を内省し、自己研鑽につなげることができる ・リハビリテーション総合実施計画書の作成フローが理解できている 	担当患者:0名	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理、感染対策 ・精神的支援(プリセプター) ・基本業務教育(プリセプター) ・日常業務の指導(事務的業務管理、カルテ管理等)、科内業務の援助 ・臨床業務教育(サポーター) ・診療参加、リハ処方から退院までの流れ、カンファレンスやミーティング等 ・対象疾患の診療に必要な基本的知識や治療技術の習得サポート ・適宜フィードバックをしながら、効率的な自己研鑽や自己学習に繋がられるよう支援 ・総合実施計画書・報告書等の流れの把握(プリセプター) 		振り返り面談
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集および記録ができる ・教育者の援助のもと、患者評価、治療および臨床業務を実践する ・教育者の援助のもと、担当症例の推論を整理し、チームミーティングで説明できる ・教育者の援助を受けながら科内およびユニット内の業務内容を遂行できる ・守秘義務、個人情報の取り扱いができる ・患者や家族に対して適切なコミュニケーション(共感、傾聴)を取ることができる ・問題に直面した時、解決するために自ら行動(相談、自己学習等)することができる ・対象疾患について理解する 	担当患者:2~3名 (4単位/日) 新患者 (移乗が軽~中 介助) 他スタッフ担当患者の代行	<ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテを用いて適切な情報収集および診療結果を記録する ・臨床業務教育(サポーター) ・教育者の援助のもと、リスク管理をしながら自身の担当患者の評価治療を行う ・基本業務教育(プリセプター) ・患者・家族との適切なコミュニケーション教育 ・医師・看護師等の他職種との連携支援 		振り返り面談
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・報告、連絡、相談ができる ・教育者の助言・見守りの下、実施できる ・総合実施計画書の作成と算定ができる ・退院が決定したときにすべきことが実践できる ・対象疾患について理解する 	担当患者:4~5名 (8単位/日) 禁忌事項のない新患者 (移乗が軽~中 介助)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育者の助言・見守りの下、リスク管理をしながら自身の担当患者の評価治療を実施する(サポーター) ・総合実施計画書の作成と算定支援(プリセプター) ・退院時指導や算定方法、リハサマリー作成指導(プリセプター) 	全般的な能力評価	振り返り面談 新人面談 教育者面談
7月		担当患者:5~6名 (10単位/日)			振り返り面談
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて教育者に助言を求め、実施できる ・最大介助のトランスファーを安全に行うことができる 	担当患者:6~7名 (11単位/日) 移乗が多介助レベル 重症患者も担当			振り返り面談
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて教育者に助言を求め、実施できる ・多疾患併存患者のリスク管理ができる 	担当患者:6~7名 (11単位/日) 多疾患併存患者も担当	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて助言し、多疾患併存患者のリスク管理をしながら担当患者の評価・治療を実施 	全般的な能力評価	振り返り面談 新人面談 教育者面談
10月~3月	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて教育者に助言を求め、実施できる ・患者や家族に対して患者教育、指導など適切な対応ができる ・一般業務が自立して実施できる ・他職種と情報共有できる ・1年の振り返りと2年目の目標設定 	担当患者:7~8名 (12単位/日)	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク管理および社会背景等を考慮しながら独力で担当患者の評価、治療を行うことができる。 ・患者・家族への自主練習・介助方法の指導ができる ・科内業務を独力で正確に遂行できる ・カンファレンスにて他職種に対し、専門職としての意見が的確に伝わるようカンファレンス記録を書く ・教育者助言のもと、応用的治療を行うことができる 	全般的な能力評価 (12月、3月) 臨床能力評価 Mini CEX (3月) 科内症例発表会 (3月)	振り返り面談 新人面談 (12月、3月) 教育者面談 (12月、3月)